新松田駅周辺整備事業に対する町民のコンセンサスはどう得る

質問者 井上 栄一 議員

質 駅周辺整備・再開発事業でまちづくりに対し、どのように町民のコンセンサスを得ていくのか。

答 平成27年度設立のまちづくり協議会以降、現在まで様々な機会を通じて町民からの多様な意見等によりコンセンサスを図ってきた。

質 町民に向けた駅周辺整備事業の説明会の中で、南北自由通路・橋上駅舎という整備事業が姿を消し、52mの高層再開発ビルを建てる当初の基本構想・基本計画と違う計画が示された。再開発の都市計画決定という手続きの前に町民の理解を得るべきでは。

答 都市計画決定手続の前に町民説明の場を設け、審議会等で検討し、意見を聞きながら進めていく。例えば50mを超えるビルの高さ等も現在検討中であり、準備組合の中で慎重に議論を重ねている。現在は、施設・配置計画等を検討している段階である。町民の期待に応えるため、引き続き情報公開と意見収集に努める。

A いろいろな意見があっても町民の要望に向かって前に進む

回答（町長）

質 未だ小田急・JR東海とは交渉中、検討中であるということで、現状とあまり変わらない駅前広場整備計画・駅周辺のまちづくりを一旦立ち止まって、町民との協働でまちづくりを再考すべきではないか。

答 再開発は地権者の協力を得てこの事業を進めている。いろいろな意見があっても、議論を重ねて町民の要望に向かって前に進むのが協働である。

一旦立ち止まるといっている人も行政と一緒に議論をしながら、一つずつ積み重ね、進めるよう考えている。

今日の時点では、一歩たりとも立ち止まるつもりは全くない。

新松田駅周辺整備基本構想
基本計画イメージ図

観光農業への取組について

質問者 古谷 星工人 議員

自然休養村事業の発足時には都市と農村の交流の場として観光農業の取組がされました。現在はミカン狩り、ミカンオーナー園、さつまいも堀等が行われています。

次のことについてお伺いいたします。

質 町内観光農業の現状について。

答 町内の観光農業は、「芋掘り園」が1園、「みかん狩り園」が3園、「みかんオーナー制度」は8園、「ブルーベリー摘み取り園」1園となっている。

町の農業生産額は、果実8000万円、茶、野菜がそれぞれ1000万円以上の作物である。

農業従事者の高齢化や担い手不足が課題となっている。

芋掘り体験

質 持続可能な観光農業の推進について。

A 必要な初期費用を支援し、協力する

回答（町長）

答 農業の課題解消と観光施策を充実させ、観光農業を推進していくためには、本町の観光事業と商業との連携が不可欠である。「松田ブランドの認定」として、農産物の6次産業化や付加価値を付けた商品販売を展開し、地元農産物の活用を推進する。

また、旧寄中学校校舎の事業者と連携し人材育成、特産品の開発、持続可能な農業経営、観光農業推進に向けて取り組んでいく。

持続可能な観光農業とするため「稼ぐ」をキーワードとした取組を進め、必要な初期費用などの支援策に取組む。

松田ブランド認定品
「さくら鱒の燻製」

このページは、質問者本人の原稿を尊重し編集しています。